農大だより

令和元年８月号　No. 77
編集発行：愛知県立農業大学校

想い出、いっぱいできたかな？
～「親子で学ぶあいちの農業」を開催！～

７月24日（水）、31日（水）に、小学生の親子を対象とした夏野菜収穫体験と収穫した野菜を料理・試食する体験型の講座である「親子で学ぶあいちの農業」を、計２回開催しました。気温が35度前後まで上昇する猛暑の中ではありましたが、それぞれ親子14組29名、12組29名に参加していただきました。

集まった親子は最初に「知ってほしい愛知の農業」と題した講義で、就農支援科齋藤科長からのクイズ形式の話を楽しみながら本県の農業の特徴を学びました。

続いて、講座担当の河野主任専門員が、写真と絵を使って、夏野菜の育て方のポイントについて説明しました。

［ナスを収穫する児童とそれを見守る研修生］

説明が終わった後は、いよいよ児童たちが待ちに待った収穫体験です。本校の雇用創出農業研修生（就農を目指す社会人）の手助けを受けながら、カンカン照りのほ場の中、元気にキュウリ、トマト、ミニトマト、ピーマン、ナスの樹にハサミを入れて収穫を行いました。

収穫の後、岡崎市で地元食材を使った料理を提供する wagamamahouse（ワガママハウス）の折田料理長を講師にお招きして、収穫した４品目と本校露地野菜専攻が生産したオクラ、タマネギを使って、「なすとピーマンと豚バラの煮物」「ミニトマトときゅうりのサラダ」「タマネギとオクラとナスの味噌汁」の３品を親子で協力して料理しました。また、雇用創出農業研修生の栽培したスイカをデザートとして食べ、どれも「おいしい！」と大変好評でした。

［お母さんと一緒、お料理に挑戦！！］

食後には農大のほ場、施設を親子で見学して農大の広さを実感しながら、盛りだくさんの講座が無事に閉講となりました。一部の親子は、閉会後、農大の直売で野菜、花、果樹、卵の購入を楽しみました。

講座終了時に行ったアンケートの結果、父母からは「子供の収穫体験が良かった。」「夏野菜の育て方を知ることができ今後に役立てたい。」「愛知は農業県であることを知った。」「親子で料理体験ができて良かった」、児童からは、「自分で作った夏野菜料理がおいしかった。嫌いな野菜も食べることができた。」「野菜の収穫が楽しかった。」等の感想が寄せられ、農業の理解促進、食育の推進、農大のＰＲに繋がる講座となりました。　　（就農支援科　河野真砂子）

県　外　学　習
試験研究機関と市場設備を視察調査
（作物専攻・果樹専攻）

７月10日(水)、11日（木）に作物専攻の２年生７名、果樹専攻の２年生13名による県外学習を実施し、福岡県農林業総合試験場、福岡市青果市場を視察しました。

福岡県農林業総合試験場では、農業資料館の担当者から新品種・新技術などの主要な成果についてパワーポイントを用いて説明を受けました。また、館内を案内してもらい、展示してある資料や水稲品種（耐暑性品種や稲WCS用品種）について見学を行いました。

［福岡県農林業総合試験場試験場で研究内容の説明を受ける様子］

次に、果樹ほ場の見学を行い、ブドウの育種ハウス、福岡県育種のブドウ「涼香」、カキのジョイント仕立ての３か所を見学しました。育種ハウスでは、夏場の高温下でも安定して着色するブドウを育種するために、ハウス内を高温条件に保ちながら、選抜を行っています。ブドウ品種「涼香」のほ場では、栽培特性や食味などの説明がありました。カキほ場では、ジョイント仕立てのカキを見学し、仕立て方法の特徴やメリットについて説明を受けました。

［福岡市青果市場会議室で説明を聞く様子］

福岡市青果市場では、卸売場と低温庫を見学しました。市場の中央を荷受け用の通路が通っていることが特徴的で、通路の側面には低温庫が設置されています。このような構造をとることで、荷受け時間の短縮とコールドチェーンの充実を図っています。本市場は平成28年に３つの市場の統合し、開場した新しい市場であり、最新の設備と流通システムを備えています。

ほ場や卸売場、低温庫など普段見ることができない場所を、学生たちは興味深く見学していました。見学後には、活発に質問が交わされ有意義な視察となりました。

（農学科　古川　恵）

2019年度ＪＡバンクあいち就農奨学金が５名の学生に贈呈されました

ＪＡ愛知信連（ＪＡバンクあいち）では、将来に向けた農業の担い手育成のため、独自の制度である「ＪＡバンクあいち就農奨学金」制度を、昨年度から実施しています。

［贈呈式後の記念撮影］

この制度は、本校の在校生を対象としており、２回目となる本年度は、卒業後、県内での就農に強い意欲のある本校の学生８名が、「私の目指す10年後の農業経営及び就農に身につけたい技能・知識」をテーマとした論文を書いて応募しました。

慎重なる審査が行われた結果、１年生１名、２年生４名の計５名が奨学生に選定されました。

奨学金の贈呈式は、８月26日（月）に、名古屋市内のＪＡあいちビルにおいて行われ、テレビ局のスタッフや新聞社の記者が大勢取材に訪れる中、主催者であるＪＡ愛知信連の石川克則経営管理委員会長の御挨拶、各奨学生の紹介の後に、奨学生全員に目録が授与されました。

続いて、各奨学生から就農に向けた強い決意表明が行われ、本校の校長からも、奨学金の給付に対する謝辞とともに奨学生に対する激励の言葉が述べられました。最後に全員で記念撮影を行い、厳粛な雰囲気の中で閉会となりました。

（教育部長　黒田　貴信）

ＪＡあいち中央農業後継者育成奨学金の授与式が開催されました

ＪＡあいち中央では、新たな農業の担い手を確保、育成するための取組のひとつとして、「農業後継者育成奨学金」制度を実施しています。

［贈呈式後の JA 組合長と農大関係者による記念撮影］

この制度は、ＪＡ独自の取組で、組合員の農業後継者で、将来の就農を目指す者に対し、就学に必要な資金の一部を、奨学金として支給するものです。

本年度は、ＪＡ管内の８名の農業後継者から申請があり、うち４名が農大生（１年生）でした。

８月20日（火）にＪＡの生活館で審査会が実施され、慎重に審査された結果、８名全員が受給対象者に選ばれました。

審査会に引き続いて開催された奨学金の贈呈式では、石川克則代表理事組合長の御挨拶に続き、奨学生全員に奨学金の目録が贈呈されました。その後は、来賓あいさつとともにＪＡ経済委員長からの激励の言葉をいただきました。これを受けて、各奨学生から順に、「将来、経営者として活躍するため、様々なことを学んでいきたい」といった力強い抱負が述べられました。

（教育部長　黒田　貴信）

「サマーキャンパス」を開催

７月31日、8月７日、28日の各水曜日、３回にわたって、午後１時30分からオープンキャンパス「サマーキャンパス」を開催しました。６月に開催した「農大発見の日」と同様、高校生やその保護者の方、県民の皆さんに農大を知っていただく催しです。

３日間とも多くの方に参加していただき、特に、同じ学校の友人同士の参加が多く見られました。また、長野県や岐阜県、三重県などの近県はもとより、埼玉県や兵庫県、鹿児島県といった遠方からの生徒の参加もあり、農大への関心の高さを実感しました。

参加者の皆さんには、パワーポイントによる農大の概要説明を聴いていただいた後、学生寮（和耕寮）や広大な敷地内にあるほ場・施設を見学していただきました。

今年は、梅雨明けが遅れましたが、梅雨明け後は一転、連日の猛暑日が続き、暑い中での見学となりました。見学の最後には果樹専攻の学生が栽培した甘いブドウの試食をして、少しはクールダウンをしていただけたのではないでしょうか。

［キャンパスツアーで本校施設の概要説明］

また、この日は農大生が毎週水曜日に体育館で実施する農畜産物実習販売も行われており、校内見学後に参加者の多くの方々が会場を訪れていました。

サマーキャンパス終了後は、入学に関する相談や大学校生活などについての相談を受け付けました。また、参加者のアンケートでは「暑かったが、校内を見学できて良かった。」「とても快適で充実した環境で学べる。」「自然が豊かで生活しやすそうだった。」「説明が分かりやすく、興味がわきました。」などの感想があり、農大の理解を深める３日間となりました。

（学務科　伊藤　正美）

農業者生涯教育研修
高校生が農業大学校の実習を体験

農業体験実習を通して農業への関心を深めてもらうことを目的に、毎年、高校生を対象とした１日農業体験研修である「緑の学園研修」を開催しています。

今年も、夏休みの７月から８月にかけて、計４回実施し、延べ120名（昨年度は107名）が参加しました。

午前中は、農大の概要説明に続き、学生寮や校内の見学を行いました。特に、学生寮の見学では、全室エアコン付きの個室が整備されていること、セキュリティ管理がしっかりしていること等、良好な生活環境に、皆驚いていた様子でした。

［在校生との意見交換会］

午後は、参加者の希望するコース（花き、作物・果樹、野菜、畜産）に分かれ、専攻の学習内容の説明を受けた後、当番で出校している在校生と共に農作物の栽培や収穫調整作業、鶏の集卵・パック詰め作業等を体験しました。

［鉢物・緑花木専攻での実習体験］

いずれの回も暑い中の実習でしたが、専攻の指導職員や農大の学生から指導を受けながら、真剣に取り組んでいました。

参加した高校生からは、「優しく教えてくれて実習が楽しかった。農大に入学したい。」との感想が聞かれました。

この体験研修は、12月24日（火）にも開催します。

（就農支援科　野村　芳江）

トマトの病害虫研修

７月17日(水)に、生産高度化研修「トマトの病害虫対策」を開催し、県内農業者、ＪＡ始め関係職員等64名の参加がありました。

［専門性の高い講演を聴講する参加者］

最初に、岐阜県農業技術センター病理昆虫部の渡辺秀樹主任専門研究員から、「岐阜県のトマト産地における薬剤耐性菌の発生状況と防除対策」として、「葉かび病、すすかび病の発生と薬剤耐性菌」、「灰色かび病発生の好適条件と耐性リスク低減をめざした薬剤選抜」、「交さ耐性とローテーション防除」等の内容で講演いただきました。

続いて、農業総合試験場環境基盤研究部の恒川健太主任から「トマトのウイルス病について」をテーマに、「ウイルス病の診断、症状の確認方法」等について、また石川博司主任研究員からは「トマトにおけるコナジラミ類の薬剤感受性について」をテーマに、「コナジラミ類について（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ)」や「薬剤感受性検定方法（薬剤と生育ステージ)」等について講演をいただきました。

最後に「、トマトにおけるバクテリア病対策について」と題して農業総合試験場企画普及部の永井裕史主任専門員から「青枯病対策」や「農研機構が開発した技術」について紹介がありました。

総合討議では、コナジラミ類の薬剤感受性についての質問が多数寄せられ、さらにアンケート調査でも好評価が得られ、参加者にとって有意義な研修となりました。

（担い手育成支援　野々山利博）

新規就農の秘訣と農産物流通の基礎を学ぶ（雇用創出農業研修　校外学習）

雇用創出農業研修は、離職者の公共職業訓練にあたる研修で、週５日、翌年２月までの９か月間にわたる研修です。

７月９日(火)に、校外学習として研修生28名が、イチジク生産ほ場（知多市）と名古屋市中央卸売市場本場を視察しました。

最初に訪問したイチジク生産ほ場では、平成24年度雇用創出農業研修修了生である園主の平川敦司氏から、新規就農の過程及び農業における自然災害の影響についての説明がありました。果樹栽培で新規就農するために、関係機関や先輩農家を頻繁に訪問し、農地やイチジク栽培の師匠を見つけたとのことです。また、昨年度の台風におけるほ場の被害についても説明がありました。研修生からは、「ゼロから新規就農するための参考になった」との声が上がりました。

次に、愛知県最大の卸売市場である名古屋市中央卸売市場を見学しました。

卸売市場では、安全な農作物の流通のために残留農薬等の厳しいチェックを行っているとのことです。また、品質の良い品物を消費者に届けるために、冷蔵・冷凍施設を活用していることを学びました。研修生からは「初めて卸売市場の全体を見ることができた」との声が上がり、充実した校外学習となりました。

研修生は、この校外学習で得た知識を今後の農業経営に活かしていきます。

（就農支援科　石本　聖絵）

［市場の価格決定方法について説明を受ける］

専　攻　紹　介

果樹専攻

果樹専攻は、約2.5ha の栽培面積で、ブドウ、ナシ、モモ、カキ、イチジク、ハウスミカン等を実習教材として栽培しています。栽培樹種が多いため、開花時期の４月上旬から収穫前の７月上旬まで、モモ、ナシの摘蕾・摘果や袋掛け、ブドウのジベレリン処理や房管理などの作業が競合して、大変な忙しさです。

夏休みは学生に当番で出てきてもらい、「実習販売」や「市場出荷」で販売する果物の収穫・調整作業を行っています。かなり多忙ですが、みんな暑い中でがんばっています。

現在、学生は1年生15名、2年生15名の合計30名で､大変賑やかに実習をしています。入学当初は多くの樹種の基本的な栽培管理技術を学び、後に希望する樹種とプロジェクト学習のテーマを決めて、より専門的な知識・技術を習得します。今は収穫作業を終えてから調査を行っています。

今年のテーマは、「ブドウにおける長期貯蔵技術の検討」､「イチジクにおける環状はく皮処理が果実品質におよぼす影響」などです。果実の収穫がほぼ終わる11月頃から本格的に研究成果をまとめます。

（農学科　佐野　達也）

［学生によるナシの選別作業］

施設野菜専攻

施設野菜専攻は、２年生15名、１年生14名の29名の学生で、10棟（約40a）の温室で、トマト、ミニトマト、ナス、キュウリ、温室メロン等の栽培技術を学んでいます。

［トマトの生育調査］

施設野菜専攻は、農家出身者が29名中13名と全体の４割を占め、農業後継者を目指す学生が多いのが特徴です。その影響を受けて、専攻全体に向上心が芽生え、非農家出身であっても独立自営を目指して意欲的に取り組む学生も多くみえます。また、１年生と２年生の仲も良く、穏やかな雰囲気の中で実習を行っています。

栽培温室では、土耕栽培のほか、ハイポニカ栽培、ココバッグ培地栽培、袋培地栽培など、県下で普及している新しい養液栽培システムを導入してます。

専攻学生は、野菜栽培技術の習得だけでなく、市場出荷をするための収穫、選別、出荷調整や毎週水曜日の校内販売実習を通して一般消費者と交流を行っています。また、２年生はより実践的な学習としてナスやトマトの農産加工実習や、県内外の先進地視察を行い、社会に出ても通用する、より実践的な学習を取り入れています。

（農学科　榎本　剛士）

［先進農家の栽培を学ぶ校外学習］

夏休みの農大では

遅かった梅雨明けのあとは、猛烈な暑さが続きました。本校は7月20日（土）から夏季休業に入りましたが、専攻の当番やプロジェクト学習に取り組んでいる学生たちは､暑い中汗をかきながら頑張っています。

夏休み中に４回「緑の学園研修」が開催され、高校生たちが本校に１日体験に訪れました。午後からは希望の専攻に分かれて専攻実習を体験しました。養鶏専攻では職員と共に当番の１年生が指導役となって、高校生たちに洗卵、パック詰めの手本を示していました。

［7月某日　はじめまして、お願いします！］

また、「歓迎」のつもりでしょうか？学習室のホワイトボードのルフィや悟空に、ミッキーがお出迎えの専攻もあったようでした。

［8月某日　ある専攻室のホワイトボード］

夏は果物の収穫真っ盛り、果樹専攻は大忙しです｡午前10時には32度を超えるなか、パートさん、学生、職員でナシの収穫にあたっています。また、暑い流通センターの中では､収穫したデラウエアの調整作業に、手を動かしながら口も動かしていました。

［8月某日　和気あいあい、ブドウの調整作業］

切花専攻では、夏休み期間中は３人の当番が管理作業を担当します。この日は専攻学習室で涼をとった後、輪ギクの収穫のため温室に向かっていきました。また、鉢物・緑花木専攻の生産物を積み込んだトラックにキク等の切花をあわせて、市場へ運ぶ準備をしていました。

［8月某日　トラックに切花を積み込む］

国内で豚コレラが発生してからは、特に家畜の防疫対策には注意を払っています。飼料用のバルク車が入校する際は、消毒槽の通過と動力噴霧機で車両足回り等の消毒を行っています。また、畜産エリアから最も離れた場所になりますが、農業機械研修の受講にみえる外部の方々にも、靴底や手指消毒をお願いして防疫対策に努めています。　　（副校長　堤　公生）

［左：運転者による消毒　右：機械教室前の消毒器具等］

今年はじめての・・・

大型の台風10号（クローサ）は、8月15日（木）に西日本を縦断して日本海へと抜けていきました。本校では、台風の接近に伴い風雨が強くなる中、園芸関係を主に対策にあたっていました。雨風が強くなったと思ったら、雲が切れて強い日差しが照り付けるなど悩ましい天候でしたが、職員と当番の学生たちで、温室の側窓、天窓のチェック、施設周辺の資材の片づけ等にあたりました。また、雇用創出農業研修生の露地野菜の栽培ほ場では、風雨が強くなる前にナス等を急いで収穫していました。

校内にあるアメダスによると、15、16日の雨量と最大瞬間風速(平均最大)は、各々41.5mm、55.0mm、19.6m/s(8.9m/s)、18.4m/s(9.0m/s)でした。一部古い温室のガラスが割れたり、若干の稲の倒伏はあったものの、特に大きな被害もなく一安心でした。

これから、台風季節は本番となってきます。大きな被害を出すことなく乗り切っていきたいと思っています。

（副校長　堤　公生）

［強風で傾く(?)校内の巨木］

［二人の背後には台風より怖い先生の目が・・・］

使えなくなっていたバックホーを更新

長年壊れて使えないままになっていた古いバックホーに換えて、８月に新しいバックホーを導入しました。大きさは、古いバックホーと同じ機械重量が1.７ｔクラスです。

これまではバックホーが使用できなかったために、どうしても必要なときだけレンタルで使用していましたが、時期と日数が限られるため、希望するすべての作業に使用することは不可能でした。今後はいつでも希望どおりに使えるようになり、滞っていた作業も計画的に進めやすくなります。

果樹専攻では、モモやナシ園において病害で枯死する樹が多くなってきており、大幅な改植が必要となっていました。しかし、抜根する手段がないため罹病樹を放置せざるを得ず、園内では空間が目立っていました。バックホーの導入で抜根ができるようになったため、今年の秋にも新しい苗を購入してモモとナシの改植を進めていく予定です。

他の専攻においても、収穫後の作物残さを埋めるための穴を掘ったり、牧柵・電牧の柱を立てるための穴を掘ったりと、幅広い用途で使用が見込まれます。また、研修部の小型車両系建設機械研修でも使用が予定されます。

農大にはなくてはならない機械で、今後はメンテナンスをしっかり行って大切に使っていきたいと思います。

（農学科　横井　信之）

［活躍が期待されるバックホー］

農大からのお知らせ

◇緑の学園（１日農業体験学習）◇

・開催日時
第５回　12月24日（火）
午前10時から午後４時30分まで
（雨天実施）
・対象：主に高校生（農業を学びたい高校卒業生を含む）
・定員：30名
・場所：農業大学校
・受講申込書を郵送またはファクシミリで研修部まで送付してください。
（締切日：12月１日（日））
・詳細は本校ウェブサイトをご覧ください。
・問合せ先：就農支援科(野村)
0564-51-1034

◇令和２年度入学者選抜試験◇

一般推薦入学試験
・出願期間：令和元年９月30日（月）から
令和元年10月16日（水）まで
・試 験 日：令和元年11月１日（金）
・合格発表：令和元年11月13日（水）
・試験科目：小論文（800字以内）
面接試験
・募集人員：定員100名のうち２／３以内
（特別推薦入学者を含む）
・受験会場：農業大学校

一般入学一次試験
・出願期間：令和元年11月12日（火）から
令和元年11月27日（水）まで
・試 験 日：令和元年12月10日（火）
・合格発表：令和元年12月19日（木）
・試験科目：数学Ⅰ、小論文（800字以内）
面接試験
・募集人員：定員100名のうち推薦入学合格者を除く人数
・受験会場：農業大学校

一般入学二次試験
一般入学一次試験で合格者が定員に満たなかった場合に実施します。

その他
・特別推薦入学試験、その他入学試験についての詳しい情報は、本校ウェブページをご覧ください。
・問合せ先：学務課(鈴木)0564-51-1602

◇生産物実習販売ごよみ◇

令和元年９月の生産物実習販売についてお知らせします。
・販売日：９月４日、11日、18日、25日
（祝日を除く毎週水曜日です。）
・時　間：午後３時から
・場　所：農業大学校体育館
※なお、袋入り堆肥の販売は、豚コレラ防疫対策の実施状況に合わせて再開します（現時点では、９月11日からの販売再開を予定しています)。
・問合せ先：農学科(山本) 0564-51-1673

校内で豚コレラ防疫対策実施中

農大では、豚コレラ防疫対策を以下のとおり実施中です。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。
○畜舎のある衛生管理区域への関係者以外の立入禁止
○農大内の主要な通行ポイントに消毒用の消石灰を散布
○主要な教育施設の各出入口付近全てに踏込消毒槽を設置(靴の消毒)
○関係車両等の消毒の徹底
（車両消毒槽、動力噴霧器）
○その他、諸防疫対策を実施